

旅行会社と連携したインフラツアーについて

中部地方整備局 中部技術事務所 吉田 真弓

■ 中部技術事務所をPRせよ

Q 中部技術事務所ってどんなところ？

- ・河川や道路の整備に必要な建設技術の普及・開発に取り組んでいます。
- ・また災害時は「災害対策支援センター」として機能するため、保有する災害対策用機械の維持・管理、訓練等を行っています。

■ これまでのPRの仕方

- ・自治体の防災訓練やイベント等に災害対策用機械を派遣（パネルも展示）。
- ・「旬な現場」（災害時に活躍する機械の見学・体験）の受入。

→ 記者発表を行っていなかったため効果的なPRができていなかった



「旬な現場」による排水ポンプ車の操作体験

なぜ？

- ・PRの対象が自治体や建業界等
- ・整備局がPRすべきは直轄事業という意識

■ 結果

- ・地域から何をしているのかわからないとの声。

■ 方向転換へ

- ・積極的に情報発信していくことで事務所の取組・役割の理解促進を図る。
- ・職員のやりがい醸成へ。

積極的に記者発表を実施

旅行会社からインフラツアーの声かけ

■ インフラツアー参加のきっかけ

- ・旅行会社のクラブツーリズム(株)は工場見学等の「大人の社会科見学ツアー」に力を入れており、中部技術事務所の「旬な現場」が同社の意向に添うものであったため、ツアー先としての当事務所に働きかけ。

※「大人の社会科見学ツアー」はクラブツーリズム株式会社の登録商標です。【(R)第5050193号】

- ・自治体や建設業界以外からも関心を寄せられていることを認識。

国土交通省
では

社会資本の役割や重要性を知っていただくため、普段入ることのできない工事現場やダムなどの施設を見学できる「インフラツーリズム」に積極的に取り組んでいる。

中部地方
整備局では

管内の現場・施設を「旬な現場」としてとりまとめ、一般の皆さんに公開しており、民間の旅行会社なども、「旬な現場」を組み込みツアーを企画している。

中部技術
事務所では

「旬な現場」として災害時に活躍する機械の見学・体験ができる。

インフラツアーに参加へ

当初

◎ 行程
開催日：8月21,24,28日、9月4,7日
主催：クラブツーリズム株式会社
行程：名古屋駅(9:10出発) = 伊勢湾水理環境実験センター（伊勢湾の模型を使用した実験を見学） = 名城公園（各自散策） = 中部技術事務所(照明車やポンプ車など災害時に活躍する機械を見学) = 名古屋駅（16:00予定）

ツアーの企画・立案には中部技術事務所は関与せず



ツアーチラシ

集客できず催行中止

- ツアーの「売り」が不明瞭
→ 興味を惹かれない見出し
- 組合せがミスマッチ
→ 同一市内、同種施設
- 平日開催
→ 幅広い世代の集客が見込めない

企画段階から連携し課題解決へ

ツアーの「売り」を共有し募集案内にアピール！

旅行会社向け操作体験・意見交換会を開催

■ 何が「売り」か

・旅行会社担当者が操作体験することでツアーの「売り」を把握。



排水ポンプの設置体験

ドローンの操作体験

■ 「売り」はドローン等の操作体験

・話題性のある機械（ドローン）を操作できることは強み。
・また無人化施工バックホウといった大型機械を操作できる希少性。
・災害復旧現場で活躍している写真パネルを合わせて展示することによって、よりイメージが具体化。

■ 「売り」を踏まえたツアーの検討

・催行時期を人気のある**秋・紅葉**とする。
・季節感も合わせて楽しめる他の現場（**小里川ダム**）を組み込むことによって多くの集客を見込む。
・募集チラシの見出しは**操作体験を全面**に出す。

多数の申込により催行決定！

ツアー実施状況

◎行程

開催日：11月11日（土）8:30～17:00

主催：クラブツーリズム株式会社

申込者：34名（小学生～高齢者）

行程：

名古屋駅(8:30出発) = 中部技術事務所(ドローン

など操作体験と災害で活躍する特殊車両の展示9:00

～12:00) = 道の駅おばあちゃん市(買い物) = 小里川ダム(秋色に染まるダムを見学

14:00～15:30) = 名古屋駅(17:00到着)



ツアーチラシ



照明車を操作する参加者



職員全員でお迎え



排水ポンプ車の説明



ドローンを操作する参加者



無人化施工バックホウを操作する参加者

<<<参加者は職員の説明に耳を傾け、熱心に質問をされるなど、災害復旧活動への高い関心>>>

◆参加者から好評の声

- ・今までも他社も含め幾つか参加させて頂きましたが、体験内容がとても良かった。
- ・グループ別に少人数で体験できたのがよかった。
- ・ドローン体験等とても楽しかった（多数）。
- ・中部技術事務所、小里川ダムともに職員の方の説明が丁寧でわかりやすかった。

今後に向けて

■ 継続開催に手応え ～受入体制の強化～

- ・事務所一丸となって取り組むことで受入対応能力の均一化を図っていく。

■ 新たなツアー形態への展開 ～現地集合・解散型～

- ・より気軽に参加できる現地集合・解散型ツアーにも対応していく。

■ SNSの活用 ～ツイッターによる情報発信～

- ・ツイッターの拡散性を活かしてツアーの魅力を高頻度で発信していく。



新たなツアーイメージ